

森林やまがた

No.155

2015.1



山形県森林協会は、『美しい森林づくり推進国民運動』を推進しています。



目次

新年のご挨拶.....	2	「森づくり活動報告会」開催のお知らせ.....	13
平成26年度川村造林記念山形県林業賞.....	3	「森のホームステイ」開始のお知らせ.....	13
森林・林業・環境機械展示実演会.....	4	林道 両所線 年度内開通.....	14
山形県特用林産振興協議会の開催.....	5	「村山版」森林ノミクスが始まっています.....	15
第28回山形県きのこ品評会の開催.....	6	企業局の森事業(企業局絆の森 月山仁田山)	
森林技術担当者現地研修を終えて.....	7	開始式開催.....	16
みどりのページ		村政施行60周年記念	
NTT山形グループによる緑の募金.....	8	第15回鮭川きのこ王国まつり.....	16
「サクラを育てる」講演会.....	8	しらたか版「木の駅」始動.....	17
センターピックアップ		飯豊町「木の駅」プロジェクトについて.....	17
山形県におけるカラマツ資源量の把握.....	10	庄内森とみどりのフェスティバル2014.....	18
森の人紹介		山形県の古木・名木、公共木造施設.....	19
庄司樹さん・下山邦彦さん.....	11	平成27年度みどり環境公募事業募集開始のお知らせ.....	20
平成26年度第2回やまがた緑県民会議開催.....	12		

新年のご挨拶

山形県農林水産部

林業振興課長 佐藤 新

平成二十七年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

皆様には、日ごろ、本県の森林・林業・木材産業の振興について、多大な御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、昨年十月、本県金山町において、皇太子殿下のご臨席を仰ぎ、第三十八回全国育樹祭が盛大に開催されました。皇太子殿下からは、「多くの県民が森づくりに参加し、県民全体で支える森づくり運動が展開されていると聞き、大変心強く思います」とのお言葉を賜りました。大会の開催に御尽力・御協力をいただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

さて、本県は、全国で第九位となる六十七万haの森林を有し、日本一の面積を誇るブナの天然林など、豊かな森林資源に恵まれています。また、戦後植栽されたスギを中心とする人工林は、いよいよ成熟期を迎えつつあり、その資源量は毎年百万m³以上成長しています。

これらの森林は、木材の供給や水資源のかん養、県土の保全など、県民の生活環境を支える多様で大切な役割を果たしており、次世代に継承していかねければならない県民共有の財産であります。

森林の機能を持続的に発揮させ、健全な森林を次世代に継承していくには、森林の適正な保全・管理を進めながら、人工林資源を積極的に利用した持続可能な収益性の高い森林経営を推進していくことが重要です。

一方、近年の木材を巡る状況を見ますと、アジア諸国の経済成長に伴う需要増大や円安等を背景に、国産材の輸出が増大するとともに、輸入材との価格差も無くなって、我が国の木材自給率は上昇傾向にあります。

国では、豊富な森林資源を循環利用し、林業の成長産業化を進めるとしており、CLT（直交集成板）の普及やセルロースナノファイバーの技術開発等による新たな分野での木材需要の創出、国産材の安定的・効率的な供給体制の整備、林業等を担う人材の育成等の事業を重点的に推進しています。

このような中、県では、川上から川下までを一体的に捉えた「緑の循環システム」を形成し、地域の豊かな森林資源を「森の恵み」、「森のエネルギー」として付加価値をつけながら活かしていく「森林（モリ）ノミクス」をオール山形で推進し、林業・木材産業の振興を図ることで、UJiターンも含め若者等の新たな雇用の場を創出し、中山間地域の活性化に結び付けていくこととしています。

具体的な取組みとして、現在、新庄市に十二万m³/年の原木を利用する集材工場の立地が計画されるとともに、鶴岡市では五万ト/年の木質バイオマスを利用する発電施設が整備中であるなど、県内各地域で、森林資源を有効活用する事業が進められています。

こうした取組みにより、これまで県内の木材需要の大半を占めていたA材の製材利用に加え、B材やC・D材の利用が大幅に拡大することが見込まれており、今後は、A～D材の需要拡大をバランス良く進めながら、県産木材を余すことなく有効に活用していく必要があります。

一方、川上では、こうした木材需要の急増に対応して、県産木材を効率的かつ継続的に安定供給していくことが求められており、森林施業の集約化や低コスト林道の整備、高性能林業機械の導入、それらを担う人材の確保・育成等の取組みを早急に進めてまいります。

また、木材生産を含めた森林の多面的機能を持続的かつ高度に発揮させていくため、治山事業などの公的な森林整備により災害に強い森林づくりを進めるとともに、再造林等による的確な更新や病害虫の被害対策等を進めてまいります。

県といたしましては、「森林（モリ）ノミクス」による林業・木材産業の振興と中山間地域の活性化等を推進するため、関係者の皆様としっかりと連携しながら、川上から川下までの総合的な取組みを積極的に進めてまいりたいと考えておりますので、皆様の御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、本県の森林・林業・木材産業のますますの発展と、皆様の御健勝を心から祈念申し上げます、新年の御挨拶といたします。

〔県林業振興課〕

荒木俊男氏・加藤善次郎氏が受賞

川村造林記念山形県林業賞は、本県の第二十三代知事、川村貞四郎氏が寄贈された山林を基金として、本県の民有林林業の振興・発展に貢献した個人、又は団体を対象に表彰しているもので、昭和三十九年に創設されました。

森林・林業・木材産業、及び山村の振興において、積極的かつ計画的な活動等により、他の模範となる功績のあった方々を市町村長から推薦していただき、県の表彰審査委員会において審査のうえ、決定しています。

昭和四十年の第一回表彰以来、本年度までに受賞された方の数は、個人五十三名、十六団体となっています。本年度は、西川町長から推薦のあった「荒木俊男氏」と、南陽市長から推薦のあった「加藤善次郎氏」が受賞されました。

表彰式は、昨年十一月二十日に山形市の山形県郷土館「文翔館」において行なわれ、細谷副知事から表彰状と記念の楯が授与されました。



◆荒木俊男氏

荒木俊男氏は、長年にわたり、本県の森林整備や木材利用等の推進に携わり、平成二十年から西村山地方森林組合の組合長として、高性能林業機械の導入や林内路網の整備、林産事業班の育成等による素材生産体制の強化に積極的に取り組み、地域林業の発展に尽力されました。

◆加藤善次郎氏

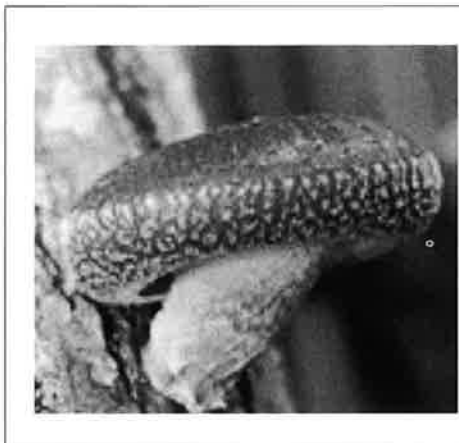
また、「大江町美しい森林（もり）づくり協議会」の会長を務め、西山杉の製品の首都圏への出荷、西山杉材を使用した大江町型住宅のPR等を推進し、西山杉のブランド化と利用拡大に取り組むなど、地域振興に多大な貢献をなされました。

加藤善次郎氏は、林業の実践を通して卓越した林業技術を有し、昭和五十六年に県林業士の認定を受け、後輩林業士を始め、行政・森林組合等の職員を対象とする技術講習会の講師を務め、除間伐の選木技術書を発刊するなど、林業技術の普及と後継者育成に尽力されました。

また、スギ優良大径木生産を目指した計画的な間伐や天然林整備に取り組み、地域の模範となる林業経営を実践し、森づくりのリーダーとして、地域林業の振興に多大な貢献をなされました。

受賞されました皆様から心からお祝いを申し上げるとともに、ますますのご活躍を祈念申し上げます。

〔県林業振興課〕



寒い冬にも、やっぱり「きのこ」!

きのこは低カロリーで栄養豊富な健康食品です。

きのこパワーで健康生活! “毎日食べよう山形きのこ”

山形県きのこ振興会

〒990-2339 山形市成沢西4-9-32 ☎023-688-8100

第三十八回全国育樹祭記念行事 森林・林業・環境機械展示実演会



十月十二・十三日の二日間、新庄市の新庄中核工業団地内NOK(株)社有地において、第三十八回全国育樹祭の記念行事「森林・林業・環境機械展示実演会」を開催しました。

開催期間中は、接近する台風が心配されましたが、初日は快晴に恵まれ、二日目も閉会までなんとか雨に降られず開催することができました。六十五の企業・団体による五百機種以上の機械が展示され、各ブースでのデモンストレーションなど、大変な盛り上がりを見せていました。

両日とも、県内外から多くの人が訪れ、来場者は機械展過去最高の約一万六千人となりました。特に、東アジア唯一の機械展ということで、韓国からの視察団など、外国からの来場者もありました。



オープニングテープカット

機械展の開催にあたっては、関係市町村、林業団体等の協力をいただきながら、山形ならではの企画で、全国からの皆様をお迎えしたところ
です。

出展は、建機メーカー、林業機械専門メーカー、輸入商社、機械リー

ス・レンタル企業等による展示であり、最新鋭の高性能林業機械の展示・実演については、今後、普及拡大を図るためにも、大変意義深いものとなりました。特に、今回の機械展においては、木質バイオマス関係の機械が多く展示されており、木材破砕機、薪割機など、近年のニーズにあつた展示、実演でありました。

また、チェーンソー関係ブースでは、チェーンソーの世界最高の技術が披露され、多くの来場者を魅了していました。

一方、県産の農産物を中心とした物販・飲食コーナーでは、地元の物産協会や商工会など十九団体が特産品や地域の食材を使った飲食を提供しました。来場者からは大変好評で、早々に完売となる出展者もありました。



来場者で賑う物販・飲食コーナー



自走での展示機械の撤収

今回、多種多様な林業機械を目にすることができたことは、大変、有意義であったと思っております。また、林業関係者のみならず、一般の多くの方々にも見ていただいたことは、森林・林業を御理解いただく、よい機会であったと思われまます。

本県における高性能林業機械の保有台数は五十二台(平成二十四年)とまだまだ少ない現状にあります。

今回の機械展は、県内の森林組合、素材生産業者にとっても、今後の低コスト作業システムを構築していくうえで、大いに参考になったのではないのでしょうか。

〔県林業振興課〕

関係者一丸となった取組みで特用林産物の振興を！

山形県特用林産物振興協議会の開催

◆はじめに

本県の豊かな森林から生産されるきのこ・山菜等の特用林産物は、中山間地域等の所得向上、及び雇用機会の創出に貢献し、農山漁村地域の産業や文化、地域コミュニティ等を支える基盤となっております。

このようなことから、特用林産物の振興については、県が目指している「食産業王国やまがた」を支える上で、大変重要な施策となっております。県では平成二十五年三月、「山形県特用林産物振興方針」(以下、「振興方針」という。)を定め、特用林産物の生産振興等を図っているところです。

◆山形県特用林産物振興協議会

本協議会では振興方針の策定や計画の進捗状況、特用林産物の振興に必要な指導、助言に関することについて、毎年、協議を行っています。きのこアドバイザー、山形県きのこ振興会、山形県木炭文化協議会、流通関係者、生産者、行政関係者などにより構成されています。

昨年十月十六日(木)に、今年度の協議会を山形市の山形県自治会館

で開催しました。はじめに、副会長の佐藤林業振興課長からあいさつをいただき、次の議事に入りました。

①県内の特用林産物の生産状況

平成二十五年の特用林産物の生産状況について報告を行いました。その中で生産量は、次表のとおり、きのこ類、山菜類については前年比で減少となっております。

近年の生産量は震災や価格低迷などで減少しており、まだ、震災前に回復していない状況となっております。

平成25年特用林産物生産量

品目	単位(t)	前年比(%)	備考
きのこ類	9,738	94.3	なめこ 3,755 t (全国3位)
山菜類	689	88.6	
樹実類	159	107.1	わらび 279 t (全国1位)
木炭類	256	104.2	

②平成二十六年年度の特用林産物振興に係る取組状況について
今年度の取組状況について意見交換を行いました。

山の幸総合対策事業による生産者支援や需要拡大。緊急雇用創出事業を活用した生産現場での技術指導や消費拡大のための普及活動。流通品目の放射性物質検査の実施や、各地域での生産者研修、PR活動について報告を行いました。

委員からは取組み内容及び考え、放射能や燃油高騰、電気料値上げの影響などについて意見をいただきました。

③平成二十七年度の特用林産物振興に係る施策について

来年度の計画について意見交換を行いました。

振興方針において定めている推進方向

- 1 特用林産物の安定供給体制の整備
- 2 特用林産物の流通・販売の促進
- 3 特用林産物の6次産業化への促進
- 4 特用林産物を活用した農山漁村地域の活性化

に基づく事業の実施及び各地域の実施計画について報告を行いました。

委員からは生産者の高齢化や後継者対策、施設の更新などについて意

見をいただきました。

④白色系なめこの生産振興について
県森林研究研修センターにおいて試験研究を実施し作出した白色系ナメコの生産振興について意見交換を行いました。

委員からは、料理法など普及促進の取組みなどについて意見をいただきました。

◆今後に向けて

振興方針に基づく施策の進行管理等について、委員より助言をもらい概ね了承を得られました。

今後とも本協議会において、特用林産物の振興について御意見をいただき、各種施策を展開してまいります。



山形県特用林産物振興協議会の模様

〔県林業振興課〕

県産きのこのさらなる品質向上を目指して逸品が集合!

第二十八回山形県きのこ品評会の開催

◆県内きのこ生産者の逸品が集合

昨年(金)の十二月十一日(木)、十二日(金)の二日間にわたって、第二十八回山形県きのこ品評会が、新庄市の「最上広域交流センターゆめりあ」を会場に開催されました。

この品評会は、きのこの品質と栽培技術の向上を図るとともに、生産意欲の高揚を図り、きのこ産業の振興発展に寄与することを目的としています。山形県きのこ振興会が主催し、毎年この時期に開催されています。今年も県内各地の生産者から見事なきのこが出品され、生シイタケ、ナメコ、エノキタケ、ヒラタケ、マイタケ、ブナシメジ、エリンギの七品目、七十一点について審査されました。

◆農林水産大臣賞は荒木正人さんに

十一日(木)に開催された審査会では、渋谷巖氏を審査委員長とする九名の審査員により、傘の形や厚み、色など数項目について審査が行われました。

その結果、主な受賞者は次のとおりとなりました。

【農林水産大臣賞】

荒木 正人 氏(鮭川村)

生しいたけ(菌床栽培)

【林野庁長官賞】

木村 勇智 氏(最上町)

生しいたけ(菌床栽培)

【山形県知事賞】

木村 喜実生 氏(最上町)

まいたけ(菌床栽培)



審査の様

翌十二日(金)には会場の交流広場にて展示会が開かれ、訪れた人からは、見事に栽培されたきのこの形や色、品揃いの素晴らしさに見入っ

ていました。

その後、表彰式が執り行われ、主催者である山形県きのこ振興会会長の太田純功氏から「昨今の厳しい状況の中、地道な努力と工夫で質の高い出品が多かった。今後も益々活躍いただきたい」と出席者に対し挨拶が述べられました。

次に審査委員長から講評が述べられ、「審査基準に基づき厳正に審査させていただいた。形質、色、つやなどが優れていたものを賞に選ばせていただいたが、甲乙つけがたい作品が多かった」と話してくださいました。

続いて、審査報告が発表され、農林水産大臣賞及び林野庁長官賞、県知事賞、優秀賞五点、優良賞十点、合わせて十八名の方に対し各賞が授与されました。

農林水産大臣賞を受賞した荒木正人さんは「また受賞できるよう今後がんばるようにしたい」と受賞された感想を話してくださいました。

また、表彰式後に行われた即売会では品評会に出品していただいた見事なきのこが訪れた方々に販売され、瞬く間に完売となりました。

次回も、より多くの生産者から出品していただき、栽培技術の高さを披露していただきたいと思えます。



林野庁長官賞
木村 勇智 さん

農林水産大臣賞
荒木 正人 さん

山形県知事賞
木村喜実生 さん

◆きのこの消費拡大に向けて

最近のきのこ生産は、燃油価格高騰や電気料値上げに伴い生産コストが増大しており、節電等の取組みによるきのこ栽培への影響が懸念されています。しかし、きのこの栽培技術は進歩しており、今年も出品されたきのこは品質がよく見事なものばかりでした。

県では、今後とも県産きのこのブランド力のアップを目指し、品質向上に向けた取り組みを推進するとともに、キャンペーンなどを通じて、県産きのこのさらなる消費拡大につなげてまいります。

〔県林業振興課〕

森林技術担当者現地研修を終えて

◆はじめに

近年、異常な豪雨により全国各地で山地災害が多数発生しており、本県においても南陽市を中心に局地的な豪雨により二年連続して甚大な被害が発生しております。また、融雪期においても、昨年は戸沢村で、今年は大江町で地すべりが発生し、特に戸沢村では避難勧告が出されるなど緊迫した状況が続きました。

災害対応業務は、迅速な対応が求められ、特に初動対応が重要となります。初めて業務に当たる職員にとっては、何から、どのように始めていくのかわからないのが現状です。また、国庫補助事業での復旧となれば、限られた期間内での復旧計画の策定が必要になります。

このようなことから、森林技術担当者の若手職員を中心に、災害対応業務をメインとした研修会を、十月一日から一七日にかけて開催しました。

◆研修内容

○テーマ

「南陽市漆山地内（織機川上流）における山地災害及び林道中沢線の復旧対策について」

○検討方法

総合支庁から参加した一〇名と林業振興課の四名、計一四名が三班に分かれて現地調査を行い、土石流が発生し、全線にわたり被災した林道中沢線と並行する溪流の効率的な復旧計画について検討しました。

○現地調査

検討に当たっては、保全対象の確認、被災状況の確認（規模等）、二次災害の危険性の有無、他所管の施設の有無、保安林・地すべり防止区域・砂防指定地の指定状況の確認、国庫補助の採択要件を満たしているかどうか等をポイントとして調査しました。

現地では、「この転石の発生源はどこでしょう」、「ダムは何基必要でしょうか」、「林道の復旧は、治山の仮設道で対応できませんか」など、若手職員が先輩に質問すると、「仮設道で対応するのはいい考えだね」とやさしく答えるなどし、班員一体となって調査を実施していたようです。

調査終了後、白鷹町での被災現場を視察しながら森林研究研修センターに移動し一日目を終えました。



現地研修の状況

○取りまとめ及び発表

二日目は、センターの会議室で現地調査の取りまとめを行い、平面図、縦断面図に復旧計画を記入し、班毎に復旧計画の方針と内容について発表しました。発表では、短時間での取りまとめにも関わらず、「林道の復旧を考慮した場合、低ダム群により土砂の移動を防止するのが最善では」などの具体的な計画が発表されればべ

るの、高いものになったと思います。また、発表終了後に、長谷部林道整備主査から「林道施設災害査定について」と題し、今年度の査定を受けての問題点などについて説明がありました。

研修の最後には、梅津森林技術主幹から講話がありました。治山事業

は保安林の整備が目的で、保安林機能を発揮するための補完的施設である。また、林道については、道を作ることが目的ではなく、その道で山や地域がどのように生きていくかを考えることが重要である、などの基本的な考え方について、参加者は熱心に聞き入っていました。



復旧計画の検討状況

◆おわりに

参加者からは、「初めて知ったことが多くあった」、「現地調査時の視点がはっきりした」、「他所管との調整の仕方が理解できた」、「今後も研修会をやってほしい」などの声が聞かれました。これらを踏まえ、今後も研修会を開催し、更なる森林技術の向上を図っていきたいと思います。

〔県林業振興課〕



みどりのページ

NTT山形
グループによる
緑の募金

◆期 日

平成二十六年十月二十七日(月)

◆募金額

十六万四千八百八十七円

地球温暖化の防止や自然環境保護活動への関心が高まる中、NTT東日本山形支店(古川直子支店長)では、企業としての責任を果たし社会の持続的な発展に貢献していくことを目的としたCSR活動を行っており、その一環として毎年緑の募金にご協力をいただいています。



古川支店長による目録の贈呈

今年も、みどりを守り育てる活動に役立てていただくことを願う同グループの社員八百二十四名から善意が寄せられ、古川直子山形支店長から寄附目録が贈呈されました。

また、同社では美しい地球を未来に「つなぐ」ため、地球の自然環境保護(生物多様性保全)活動を推進しており、山形支店では、昨年度から県民の森湿性植物園をフィールドに、身近な水生生物の生育環境を調査しつつ、その里山環境の保全と水生生物の生育環境保全活動を実施しています。

当財団としては、今後ともこのような活動を支援して参りたいと思います。

「サクラを育てる」講演会
「サクラとその文化を
育んできた日本」

◆概要

公益財団法人山形県みどり推進機構では、長年にわたって県内の緑化を推進してきており、山形新聞・山形放送が取組んでいる最上川流域へのサクラの景色づくりにも十九年余り携わってきました。

また、美しい山形・最上川フォー

ラムとも連携し、「サクラ守」育成のための研修会などを開催しています。

この度、山形県の母なる川「最上川」の流域や、その上流の山々に咲き続けるサクラについて様々な角度からとらえ、サクラの持つ新たな可能性とその未来について考える機会にしたいと考え、日本のサクラ研究の第一人者であります東京大学の大場先生を講師にお招きし、「サクラとその文化を育んできた日本」と題して講演会を開催しました。

◆期 日

平成二十六年十一月二十八日(金)

◆場 所

山形県土地改良事業団体連合会

◆主 催

(公財)山形県みどり推進機構

◆後 援

山形新聞・山形放送、美しい山形・最上川フォーラム、(公財)山形県林業公社、山形県土地改良事業団体連合会、(二社)日本樹木医会山形県支部

◆講 師

東京大学名誉教授 大場秀章氏

◆参加者数 約百名

◆内 容

ユーラシア大陸の東端に生まれた日本列島、その日本列島が偶然にも



熱心に聞き入る参加者の皆さん

森の国として生まれ、人々が森と共に生活を営んでいく過程で、森や里からサクラを見いだし、サクラの国になったことについて講演いただきました。

我々になじみの深い万葉集には、ハギ(百四十一首で一位)やウメ(百十九首で二位)などの植物が多く詠まれていましたが、サクラ類は七番目にあたる四十四首で詠まれており、この時代にはまだまだサクラを愛でる文化は育まれていませんでした。その理由のひとつとして、京を取り巻く森林が照葉樹林で占めら